

概観

【政治・社会】

- ・25日、全国で地方選挙が実施された（決選投票は11月1日に実施）。選挙の結果、GERBが全27県庁所在地のうち21市、改革派ブロックが4市の市長選で勝利した。
- ・25日、電子投票の導入の是非を問う国民投票が地方選挙とともに実施された。低投票率のため承認されなかったが、賛成票が投票数の過半数を超えたため国民議会で審議されることとなった。

【経 済】

- ・21日、国家統計局は、2014年の財政赤字の確定値を対GDP比5.8%（約48億レヴァ）と発表した（コーポレート商業銀行破綻による預金保証のための政府の借入金を反映）。

【我が国との関係】

- ・12日から16日まで、岸宏一参議院日本ブルガリア友好議員連盟会長（参議院予算委員長）を団長とする同議員連盟の議員団がブルガリアを訪問した。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

（1）地方選挙関連

◆地方選挙の実施

▶25日、全国で地方選挙（第1回投票）が行われた。また、11月1日、第1回投票で有効投票数の過半数を獲得した候補者がいなかった自治体において、上位2名による第2回投票（決選投票）が行われた。GERBは全27県庁所在地のうち21市、RBは4市（GERBが相乗りしたキュステンディル市及びモンタナ市含む）、MRFは1市（カルジャリ市）の市長選で勝利した。BSPは政党別得票率はGERBに次いで2位であったが、従来当選していたロヴェチ市、タルゴヴィシテ市、シューメン市、ラズグラッド市のいずれでも敗北し、県庁所在地の市長選での当選者は出なかった。

▶第1回投票

第1回投票での主な都市の当選者は以下の通り。

ソフィア市：ヨルダンカ・ファンダコヴァ（現職、GERB）：60.17%

ヴァルナ市：イヴァン・ポルトニフ（現職、GERB）：62.67%

ブルガス市：ディミタル・ニコロフ（現職、GERB）：84%

ルセ市：プラメン・ストイロフ（現職、GERB）：52.94%

スタラ・ザゴラ市：ジフコ・トドロフ（現職、GERB）：79.04%

カザンラク市：ガリナ・ストヤノヴァ（現職、GERB）：69.97%

ヴェリコ・タルノヴォ市：ダニエル・パノフ（現職、GERB）：65.77%

▶なお、ソフィア市での開票作業現場では混乱が生じた。ソフィア市の票はアリーナ・アルメエツ・ホールに集められたが、人員不足のため票の確認

作業に時間を要し、確認を待つ多数の地区委員が徹夜で列に並んだ。倒れて病院に運ばれる委員もいた。

▶第二回投票（決選投票）

第二回投票が行われた14の県庁所在地のうち、GERBは11市、RBは2市（プレヴェン市、ドブリッチ市）の市長選で勝利した。パザルジク市では無所属の現職トル・ポポフ候補が再選された。プロヴディフ市では現職のトテフ候補（GERB）が僅差でアタナソフ候補（愛国戦線）に勝利した。また、プレヴェン市でも僅差でスパルタンスキ候補（無所属、RBの支持）が現職のストイコフ候補（GERB）に勝利した。ドブリッチ市では、ヨルダノフ候補（RB）が現職のニコロヴァ候補（GERB）に勝利した。ハスコヴォ市では、ベリヴァノフ候補（GERB）が長期にわたり市長を務めている現職のイヴァノフ候補（RBの支持）に勝利した。

▶第二回投票（決選投票）の結果による主な都市の当選者は以下の通り。

プロヴディフ市：イヴァン・トテフ（現職、GERB）：50.73%

プレヴェン市：ゲオルギ・スパルタンスキ（無所属（RB支持））：52.99%

ドブリッチ市：ヨルダン・ヨルダノフ（RB）：50.61%

ハスコヴォ市：ドブリ・ベリヴァノフ（GERB）：73.13%

スリヴェン市：ステファン・ラデフ（GERB）：53.9%

▶投票率

第1回投票：53.6%

第2回投票：40.83%

▶なお、ソフィア市議会では、GERBは定数61のうち30議席（選挙前33議席）を獲得したが、わずかに過半数に達しなかった。また、ソフィア市の区長については、全24区のうちGERBが19区、RBが4区、無所属候補が1区で当選した。

▶GERBは全国市議会の全5,181議席のう

ち計1,727議席を獲得し（前回2011年の選挙時は1,601議席）、全国の約3分の1の議席を獲得した。BSPは765議席、MRFは761議席、RBは236議席、ABRは96議席を獲得した。

◆電子投票の導入の是非を問う国民投票の実施

▶25日、電子投票の導入の是非を問う国民投票が地方選挙とともに実施された。69.49%が電子投票の導入を「支持する」、25.99%が「支持しない」と回答した。投票率は39.67%だった。投票率が直近の国民議会選挙の投票率（48.66%）を下回ったため、国民投票の結果を国民議会が採択することはなくなった。しかし、投票率20%を上回り、かつ、有効投票数の過半数が「支持する」と回答したため、規定により同質問は国民議会で審議されることになった。

（2）政府・国民議会の動き

◆プレヴネリエフ大統領が軍情報改正法案に対する拒否権発動

▶15日、プレヴネリエフ大統領は、1日に可決された軍情報法改正法案に対する拒否権を発動し、同改正法案を国民議会に差し戻した。同改正法案により、軍情報局（DIS）長官は現職の高位の軍人であることを要するとの新要件が規定された。バカロフ現長官は新要件を満たしていないことから辞意を表明したが、ボリスフ首相及びネンチェフ国防相は留任を求めた。プレヴネリエフ大統領によると、本要件の導入に際し、説得的な議論が行われなかった。また、同大統領は、DIS長官は治安部門又は軍での職業経験のある民間人が務めることも可能である、と述べた。

（注：11月5日、国民議会は同改正法案を159票対15票（棄権2）で再可決した。）

（3）その他

◆空軍司令官の辞表撤回

▶1日、ラデフ空軍司令官は、ボリスフ首相との

面会後、数時間前に提出した自身の辞表を撤回した。ラデフ空軍司令官は、辞表の提出は政治的な動機によるものではなく、戦闘飛行に対する明確な展望が欠如していること、パイロットやエンジニアのキャリア開発の機会を確保し、彼らの健康を保護するという自身の空軍司令官としての能力が欠如していることが理由である、と述べた。ボリスフ首相は、2016年度の空軍予算を8,000万レヴァ増額することを約束した。

◆シデロフ・アタッカ党首等の騒乱行動

▶9日夜、アタッカのシデロフ党首及び同党のチュコロフ議員がソフィアの酒・タバコ店で騒乱・暴力行動を行った。両者は酩酊していたと見られ、駆けつけた警官に対し、この店は密輸タバコ、麻薬を販売していると主張したが、店から不法物品は発見されなかった。シデロフ党首は店主及び警官を殴打した。12日、ツァツァロフ検事総長は、同党首らの不逮捕特権の剥奪を国民議会に要請した。

▶23日夜及び地方選挙が行われた25日夜、シデロフ党首及びチュコロフ議員はソフィアの国立演劇・映画芸術アカデミーに押し入り、学生に暴力行動等を行った。シデロフ党首は警察により建物から引きずり出された後、一般男性1名により顔を殴打された。

▶26日、同党首らの免責特権の剥奪及び捜査を求める抗議行動が行われた。また、同日、ツァツァロフ検事総長は、同党首らの不逮捕特権の剥奪を国民議会に要請した。また、連立与党は、議員の不逮捕特権を剥奪する旨の憲法改正の検討を開始する、と発表した。これに対し、イヴァノフ法相は27日、議員の不逮捕特権の完全廃止を支持しないとの見解を示した。

（注：11月5日及び11日、国民議会はそれぞれの事件について両議員の不逮捕特権の剥奪及び逮捕権限付与の決定を行った。）

◆国境付近でアフガニスタン人1名が銃弾を受け死亡

▶15日夜、トルコからブルガリアに入国しようとしたアフガニスタン人男性が、国境警察の撃った銃弾の跳弾により死亡した。事件は、南東部スレデッツ市近郊でブルガリアに入国しようとする難民54人を国境警察が追跡中に発生した。内務省のコストフ官房長は、威嚇のため空中に発砲した銃弾の跳弾が誤って難民の1人の頸部後部に命中したもので、故意ではなかったと説明した。

▶16日、バチヴァロヴァ副首相兼内相は、トルコのエディルネ訪問後、カピタン・アンドレエヴォの国境検問所で記者団に対し、本事件は非常に悲劇的な事件である、と表現し、深い遺憾の意を表明した。同副首相兼内相は、このような錯綜した状況では悲劇的な事件が起こりうる、この極度に錯綜した状況において、国境警察は非常に勇敢に行動したと考えている、と述べた。また、同副首相兼内相は、ブルガリア国境の防衛及び不法越境の阻止は我々の主要責務である、この意味で、国境警察は彼らの任務を果たしただけである、と述べた。

▶17日、ボリスフ首相は南部のドスパットで記者団に対し、本事件は不運な事故である、と述べた。本事件は移民がEU域外国境で撃たれた初めてのケースである。同首相は、国境警察はなすべきことをした、国境警察は危険の高い組織化された大人数の集団に立ち向かい、暗闇の中、極限的な状況で職務を遂行した、誰も人を殺したいとは思っていない、と述べた上で、アフガニスタンからの移民は難民とは言い難い、彼らはシリア人とはまるで異なっている、と付言した。また、同首相は、本事件は、ブルガリア国境が欧州で最も防衛されている国境であることを示した、と述べた。

◆米軍との共同軍事演習の実施

▶26日、国防省は、同日から11月8日までの間、ノヴォ・セロ演習場で米軍との共同軍事演習「プレミアム・ライオン2015」を実施すると発表した。本演習の目的は、集団防衛下における機械化編成の相互運用性の向上である。本演習には、最大200名の米海兵隊、35名のルーマニ

ア陸軍兵士の他、戦車4台、装甲車6台、3つの砲兵隊が参加する予定である。ブルガリアからは最大200名の兵士が参加する予定である。

2. 外政

◆ニシャニ・アルバニア大統領のブルガリア訪問

▶6日及び7日、アルバニアのニシャニ大統領がブルガリアを公式訪問した。プレヴネリエフ大統領とニシャニ大統領の会談では、二国間の貿易及び経済的結びつきを深めるための機会について焦点が当てられた。両大統領は、両国の経済協力は順調に進展しているが、本来の潜在可能性までには達していないとの考えで一致した。また、両大統領は、エネルギー、再生可能エネルギー、エネルギー連結性、輸送インフラ分野に従事するより多くのブルガリア企業がアルバニアで活動するよう促進するための選択肢について協議した。プレヴネリエフ大統領によると、ブルガリア企業はアルバニアのインフラ建設計画に関心を有している。地域の輸送・エネルギー連結性の不十分さについても議題とされ、両大統領はこれらの改善の必要性について合意した。

▶また、プレヴネリエフ大統領は、ブルガリアはアルバニアのEU加盟への過程を支持する、と述べ、EU統合過程は西バルカン諸国の統合なしには完成しないとの立場を改めて表明した。ニシャニ大統領は、アルバニアのEU加盟に対するブルガリアの支持に謝意を表明した。ニシャニ大統領は、アルバニアは農業、サービス及びEU基金消化におけるブルガリアの経験に関心を有している、と述べた。

▶ボリスフ首相は、ニシャニ大統領との会談において、アルバニア及びその他の西バルカン諸国の欧州への展望に対する我々の支持は一貫しており積極的なものである、我々はNATOのパートナーシップにおける重要な同盟国としてのアルバニアの役割を評価している、と述べた。ニシャニ大統領は、友好的な二国間の協力を促進するとの意志及び希望をブルガリア側と共有し、貿易及び経

済協力のための潜在可能性があることに同意した。また、ニシャニ大統領は、ツァチェヴァ国民議会議長とも会談を行った。

◆クーンデルス外相のブルガリア訪問

▶7日、オランダのクーンデルス外相がミトフ外相の招待によりブルガリアを公式訪問した。

ボリスフ首相はクーンデルス外相との会談において、ブルガリアは対オランダ関係を高く評価している、オランダはブルガリアへの主要投資国であり、二国間貿易及び経済協力を促進するためのより多くの潜在可能性がある、と述べた。両者は欧州への難民流入問題についても議論した。

▶ミトフ外相は、クーンデルス外相との会談後の記者会見において、ブルガリアはシェンゲン圏における居場所を獲得した、と述べた。ミトフ外相は、我々はブルガリアのシェンゲン加入に対するオランダの支持を頼りにしている、と述べ、ブルガリアはEU域外国境の安全保障確保のために必要な全てのことを引き続き行う、と付言した。

▶クーンデルス外相は、ブルガリアがシェンゲン加入の技術的要件を満たしていることの重要性を強調した。また、クーンデルス外相は、(ブルガリアの)シェンゲン加入問題は次回の司法・内務理事会の議題に含まれてないと述べた上で、我々は法的・政治的な作業が必要な海、空そして陸の国境(の撤廃)に向けて前進しなければならない、誰もがブルガリアにシェンゲンに加入してほしいと思っている旨述べた。

▶プレヴネリエフ大統領はクーンデルス外相との会談において、ブルガリアのシェンゲン加入に関するEU加盟国の政治的決定を求め、ブルガリアは空路の国境撤廃から開始するという段階的加入に同意している、と述べた。クーンデルス外相は、オランダはブルガリアの努力及びシェンゲン加入のための基準の達成を評価している、と述べた。

◆イヴァノフ・マケドニア大統領のブルガリア訪問

▶8日、ブルガリア訪問中のマケドニアのイヴァ

ノフ大統領はプレヴネリエフ大統領と会談を行った。プレヴネリエフ大統領は会談において、ブルガリアはマケドニアの欧州統合に向けた原動力となることを希望し、その用意もある、(欧州統合)過程にあるどのバルカン諸国の進展も地域全体にとっての成功となるだろう、と述べた。プレヴネリエフ大統領は、マケドニアのEU加盟に対するブルガリアの支持は無条件ではない、と改めて述べた上で同国との善隣協定の署名に向けた迅速な作業を促し、同協定は二国間関係の新たな弾みとなり統合プロセスを加速させるだろう、と述べた。

▶イヴァノフ大統領は、ブルガリアとマケドニアの新たな関係が始まる時である、と述べた。両大統領は両国の外相に対し、善隣協定の署名に向けた交渉過程で議論となっている問題点の解決を促した。また、両大統領は、南東欧の展望を変え、貿易・投資・観光を促進することが見込まれる地域輸送及びエネルギー連結に関する作業の迅速化に賛成する立場を表明した。さらに、両大統領は欧州の予期せぬ難民流入問題には協力及び共同行動が必要であるとの意見で一致した。

◆トウスク欧州理事会議長のブルガリア訪問

▶9日、ブルガリア訪問中のトウスク欧州理事会議長は、ボリスフ首相とのヴァルナでの会談後、ブルガリアはシェンゲン圏の一員となる準備ができています、と述べた。トウスク議長は、国境防衛について、今やブルガリアは他の加盟国にとってもおそらく最善の例である、と述べた。また、トウスク議長は、ブルガリアは欧州の連帯へのコミットを示しているが、国境で更なる問題が生じるのであればEUからの支援を当てにすることも可能である、と述べた。

▶トウスク議長は、ブルガリアのシェンゲン加入に対する個人的な支持を表明したが、かかるステップには全EU加盟国の同意が必要であるとした。トウスク議長は、我々は全EU加盟国の同意が得られるよう懸命に働く、その間にブルガリアは司法改革、汚職・組織犯罪対策を断固として継続する必要がある、と述べた。

▶ボリスフ首相は、ブルガリアはシェンゲン加入に向け大きく進展してきた、ブルガリアは欧州諸国の半数よりも良い(域外)国境国となれることを証明してきた、と述べた。また、ボリスフ首相は、ブルガリアは難民の生まれた場所に近いシリア領域に安全地帯を設置するとの考えを支持する、ブルガリアで新たな難民施設を作る計画はない、現在そのような必要がないからである、と述べた。両者は、欧州のエネルギー問題についても議論した。

◆ヤーグラン欧州評議会事務局長のブルガリア訪問

▶12日、ブルガリアを訪問中のヤーグラン欧州評議会事務局長はプレヴネリエフ大統領、ボリスフ首相、ミトフ外相等と会談した。

▶プレヴネリエフ大統領は、ヤーグラン欧州評議会事務局長に対し、欧州評議会閣僚委員会議長国の期間(2015年11月~2016年5月)、ブルガリアはヘルシンキ最終文書に定められた欧州の団結及び協調の基本原則を再確認するために働く、と述べた。プレヴネリエフ大統領は、ヘルシンキ最終文書の原則の再確認はブルガリア議長国時の中心課題となるだろう、なぜなら現在、これらの価値観は欧州を不安定化させようとしたり、国際法に違反している勢力によって脅威にさらされているからである、主権の平等、軍事力の脅威又はその使用の自制、国境の不可侵、国家の領土一体性、紛争の平和的解決は疑問の余地のない原則である、と述べた。

▶ヤーグラン事務局長は、ブルガリアは多くの危機が起こっている時期に欧州評議会閣僚委員会の議長国を引き受けることになる、ブルガリアは優れた計画と能力により、価値ある議長国となることを信じている、と述べた。

▶ボリスフ首相とヤーグラン事務局長は、来たるブルガリアの欧州評議会閣僚委員会議長国就任の他、難民・移民危機やテロにつながる過激化対策といった同評議会の議題に関する主な事項について議論した。両者は、欧州は新たな困難に直面し

ており、共同での解決策の模索が求められているとの意見で一致した。

▶ミトフ外相とヤーグラン事務局長は、ブルガリアの欧州評議会閣僚委員会の議長国時の優先事項及び同評議会に関連する事項について議論した。

▶ツァチェヴァ国民議会議長はヤーグラン事務局長との会談において、民主主義に関する欧州共通の分野を再確認するプロセスにおける欧州評議会の主導的役割について、ブルガリアの立場を確認した。

◆ボリスフ首相：トルコ訪問

▶14日、ボリスフ首相はトルコを公式訪問し、同国のダーヴトオール首相と会談した。両者は、難民危機、対テロ問題、投資プロジェクト、二国間関係の発展等について議論を行った。また、ボリスフ首相は移民・発展に関する第8回グローバル・フォーラムに出席した他、エルドアン大統領と電話会談を行った。

◆王毅・中国外交部長のブルガリア訪問

▶15日、ミトフ外相は、ブルガリア訪問中の中国の王毅外交部長との共同記者会見において、中国はアジアにおけるブルガリアの主要パートナーである、と述べた。ミトフ外相は、我々は協力分野を拡大し、EU・中国戦略的パートナーシップの内容を含む、特定の主要な共同プロジェクトを実行することを希望する、と述べ、政治、貿易、経済及び文化を含む多くの分野における過去数年間のブルガリア・中国関係の劇的な発展を強調した。

▶ミトフ外相は、我々は中・東欧諸国（CEEC）と中国の間の協カイニシアチブを積極的に支持するとともに、それに参加する、我々は同フォーマットにおいて近く行われる会合と、貿易・経済交流のための非常に重要な文書の署名を楽しみにしている、と述べた。また、ミトフ外相は、習近平国家主席のイニシアチブである「一帯一路」の「新シルクロード」構想における輸送回廊の発展に対し、ブルガリアも積極的な役割を果たす用意があ

る、と付言した。

▶王毅外交部長は、今回のブルガリア訪問の目的は、友好、協力及びパートナーシップによって実際の結果を生み出すことであり、両国の国民はそれらを見ることができるだろう、と述べた。また、王毅外交部長は、農業、インフラ、エネルギー及び文化交流の分野における二国間協力の可能性を強調した。さらに、王毅外交部長は、中国とCEECの間の協力における良好なパートナーシップの構築について言及した。

▶同日、王毅外交部長はプレヴネリエフ大統領とも会談した。両者は、特に輸送インフラ、エネルギー、IT、自動車産業、農業・食品、観光及び文化の分野における二国間パートナーシップと協力を促進するための両国の決意を確認した。

▶16日、ボリスフ首相は王毅外交部長と会談し、ブルガリアは中国の対ブルガリア投資の増大に関心を有している、と述べた。両者は、農業、輸送、文化、科学、技術における結びつきを深化させるための動きを含むいくつかの協力可能性のある分野について議論した他、「新シルクロード」構想における輸送回廊についても議論した。

◆ボリスフ首相：欧州理事会出席

▶15日及び16日、ボリスフ首相は欧州理事会に出席するためブリュッセルを訪問した。理事会では難民問題が主な議題とされた。ボリスフ首相は、15日夜にブルガリアのスレデッツ付近で発生した難民死亡事件の対応のため、理事会の途中で帰国した。

◆ボリスフ首相：欧州人民党大会出席

▶21日、ボリスフ首相はスペインのマドリードで行われた欧州人民党（EPP）党大会に出席した。ボリスフ首相は、党大会出席に際し、スペインのラホイ首相と会談し、EU南部国境における難民流入問題等について議論した。また、ボリスフ首相は、EPPのロペス・イストリス事務局長とも会談した。

◆ミトフ外相：ギリシャ訪問

▶21日及び22日、ミトフ外相はギリシャのコジラス外相の招待により、同国を公式訪問した。ミトフ外相は、パヴロプロス大統領、ヴチス国会議長、コジラス外相と会談した。会談では、二国間関係、西バルカン諸国の欧州統合、天然ガス相互接続管、中東情勢及び難民流入問題について議論が行われた。

◆ミグ29戦闘機補修に関するポーランドとの政府間協定の署名

▶22日、ポーランド訪問中のネンチェフ国防と同国のシェモニャク副首相兼国防相は、ワルシャワにおいて、ミグ29戦闘機の補修に関する両国政府間の協定に署名した。ブルガリア国防省の提供する情報によると、本協定はブルガリア空軍の保有するミグ29戦闘機のエンジン6つについて、ポーランドでの補修を規定するものである。補修後のエンジンの耐用期間は350（飛行）時間又は8年間となる。最初の4つのエンジンの補修はポーランドの工場への輸送後6ヶ月内に行われる。残りの2つのエンジンの補修は最初の4つのエンジンの修理後4ヶ月内に行われる。エンジン1つあたりの補修費用は1,023,000ユーロである。ブルガリアとポーランド間のエンジンの輸送費用はポーランド負担となる。協定上の総補修価格は6,138,000ユーロである。

▶両国防相は署名後に共同記者会見を行った。ネンチェフ国防相は、本協定はブルガリアの戦略地政学上の選択である、ブルガリアがEU及びNATOへ更に統合しようとしていることの現れである、と述べた。

▶シェモニャク国防相は、ポーランドは本協定を誠実に、期日通りに、高水準で遂行するため尽力することを宣言する、と述べた。シェモニャク国防相は、ロシアの立場に対するコメントを求められ、ロシアが本協定に反対しているのは承知しているが、本件は二国間の選択であり、我々にはできるだけ迅速かつ入念に本協定を履行するため尽力するつもりである、と述べた。

◆ブルガリア、ルーマニア、セルビアの首相の三者会談

▶24日、ボリスフ首相、ポンタ・ルーマニア首相及びブチッチ・セルビア首相とのいわゆる「クライオバ三ヶ国」首脳会談がソフィアのボヤナ公邸で行われた（注：第1回会合は4月にルーマニアのクライオバにおいて行われた）。会談では、欧州の難民危機及びバルカン諸国への影響、インフラ及びエネルギー協力の促進が主な議題とされた。

▶ボリスフ首相は会談後、ドイツとオーストリアが難民流入阻止のため国境を閉鎖する場合、ブルガリア、セルビア及びルーマニアも国境を閉鎖する用意がある、我々はやって来る可能性のある数百万人の難民の流入圧力に自国民をさらすつもりはない、と述べた。ボリスフ首相は、我々はシリアの激しい戦争を理解しているが、アフガニスタン、イラク、イランからの大量の難民についても懸念している、と述べた。

▶ポンタ首相は、これは三ヶ国の共通の立場である、と述べた。ポンタ首相によれば、三ヶ国はそれぞれの義務を果たしており、欧州全体との連帯を示している、しかし、一定の諸国のみに責任を負わせることは許されない。ポンタ首相は、国境を閉鎖しフェンスを建設する国があれば、ブルガリア、ルーマニア及びセルビアにも迅速に自国を防衛する権利がある、しかし、これは良い解決策ではなく、欧州全体で共通の行動をとることが良い解決策である、と述べた。

▶ブチッチ首相は、セルビアは当初からフェンスや壁には反対してきた、セルビアは常に難民を受け入れているが、この三ヶ国が2,3百万人の難民が滞在できる国であると考えるのは現実的ではない、だから我々三ヶ国はかかるシナリオを受け入れることはできないということで合意した、と述べた。

◆ボリスフ首相：西バルカンの難民流入に関する関係国首脳会合出席

▶25日、ボリスフ首相はブリュッセルで行われた西バルカンの難民流入に関する関係国首脳会合

に出席した。同会合では、合計10万人の一時的難民収容枠（ギリシャで3万人、補助金を受けるホストファミリーで2万人、UNHCRの支援を受ける西バルカン諸国で5万人）を創設することで合意された。

ボリスフ首相は会合後の記者会見において、難民

流入への対処のために国際金融機関が融資を行うとの提案を断固として拒否する、と述べた。欧州委員会は同会合において、難民流入への対処のための選択肢の一つとして、国際金融機関からの融資を提案した。

経 済

1. マクロ経済

◆8月までの輸出総額は前年同期比8%増

▶12日発表の国家統計局のデータによると、今年1月から8月までの期間における輸出総額は303億レヴァで前年同期比8%増となった。同期間における輸入総額は340億レヴァで前年同期比3.1%増となった。貿易収支は37.7億レヴァの赤字で、前年同時期より12.1億レヴァから減少した。同期間における対非EU輸出は110億レヴァで前年同期比5.3%増となった。同期間における対非EU輸入は125億レヴァで前年同期比2.8%減となった。

▶8月の輸出総額は38億レヴァとなり、前年同月比1%減となった。同月の輸入総額は38億レヴァで前年同期比11.6%減となった。8月の対EU輸出は25億レヴァで前年同月比6.7%増となった。同月の対EU輸入は24億レヴァで前年同期比4.1%減となった。8月の対非EU輸出は13億レヴァで前年同月比12.8%減となり、ロシア（21%減）、シンガポール（35%）への輸出が最も減少した。同月の対非EU輸入は14億レヴァで前年同期比21.4%減となった。

◆9月のインフレ率は前月比マイナス0.1%

▶14日の国家統計局の発表によると、9月のインフレ率は前月比マイナス0.1%となった。前年同月比では0.1%だった。9月は前月比で食料・非アルコール飲料が1.6%、教育が1.9%値上がりした一方、輸送が4.6%、文化・娯楽が5.3%値下がりした。なお、過去12ヶ月間

（2014年10月－2015年9月）の平均インフレ率は前年同期比マイナス0.1%だった。

◆8月までの外国直接投資は約9.9億ユーロ

▶16日発表のブルガリア国立銀行のデータによると、今年1月から8月までの外国直接投資（FDI）は9億9430万ユーロ（対GDP比2.2%）となり、前年同期の10億7,200万ユーロと比べ12%減となった。主な投資国はオランダ、フランス等となっている。同期間に資本投資は1億2,570万ユーロ減少し、2億3,470万ユーロとなった。また、外国人による不動産購入も減少し、同期間に外国人の購入した不動産は総額2,910万ユーロにとどまり、前年同期の9,060万ユーロから大きく減少した。なお、8月単月のFDIは4,690万ユーロとなり、前年同月の2億660万ユーロから大幅に減少した。

▶今年1月から8月までのブルガリアの対外国投資も2,420万ユーロとなり、前年同期の4億9,820万ユーロから大幅に減少した。

▶一方、今年1月から8月までの在外ブルガリア人によるブルガリアへの送金額は、計5億6,700万ユーロとなった。

◆2014年の財政赤字は対GDP比5.8%に修正

▶21日、国家統計局は、2014年の財政赤字の確定値を対GDP比5.8%（約48億レヴァ）と発表した。本数値は、コーポレート商業銀行（CCB）の破綻による預金保証のための政府の借入

金を反映したものである。2015年春、国家統計局は2014年の財政赤字の暫定値を対GDP比2.8%（約23.4億レヴァ）と発表していた。財務省によると、暫定値と確定値の違いは、預金保険機構の分類を「金融機関部門」から「一般政府部門」に変更したことによるものである。暫定値の計算では預金保険機構を「金融機関部門」に分類したため、同機構の収支は財政赤字に反映されなかった。

▶しかし、ユーロスタットは、預金保険機構への政府の貸付金20億レヴァは財政赤字に分類すべきであるとの見解を示した。国家統計局は最終的にユーロスタットの見解に従い、本数値を修正することとなった。

▶今回の確定値は、EUの安定・成長協定上の財政赤字の上限である対GDP比3%を超えているため、EUによる財政赤字是正手続が開始されるかが注目される。しかし、同手続は必ずしも厳格に適用されてきたわけではなく、一過性の事情も考慮される。ルクセンブルク（2010年）、フィンランド（2014年）等、過去に上限を超えた加盟国に対しても、同手続は開始されなかった。

▶ユーロスタットの統計によると、2014年の財政赤字がブルガリアよりも高水準となっている加盟国はスペイン（対GDP比5.9%）、ポルトガル（同7.2%）、キプロス（同8.9%）である。また、クロアチア（同5.6%）、英国（同5.7%）はブルガリアと同水準となっている。

◆政府による2016年度予算の承認

▶30日、2016年度予算案が閣僚評議会で承認された。来年度の歳入は329億9,500万レヴァで前年度予算比4.3%増、歳出は337億8,500万レヴァで前年度予算比0.7%増を見込んでいる。財政赤字は前年度予算の28.7億（対GDP比3.3%）から18億レヴァ（同2%）への減少を見込んでいる。ボリスフ首相は、財政赤字については対GDP比1%を切るよう努力する、と述べた。

▶また、来年のEUからの歳入は25億レヴァと

なる見込みである一方、ブルガリアのEUへの拠出金は10億レヴァとなる見込みである。

▶ゴラノフ財相は、来年度は国防予算及び新たな軍事装備の購入費用を増額する予定である、と述べた。国防予算は約10億レヴァ（対GDP比1.13%）となる予定である。来年度は難民流入問題対策にも十分な予算が充てられる。また、歳入面では、ソフィア空港のコンセッションによる歳入6億レヴァを見込んでいる。

2. 経済政策、産業

（1）エネルギー関連

◆チレンのガス貯蔵施設の拡張計画開始

▶20日、チレンにある天然ガス貯蔵施設の拡張プロジェクトが公式に開始した。同プロジェクトの第一段階は、一日の採掘量を現在の420万立米から500万立米に増加させること等である。同プロジェクトは、シミンポートグループの石油・天然ガス掘削・生産会社が行う。同プロジェクトの第二段階は、天然ガスの貯蔵容量を10億立米に倍増すること等である。同プロジェクトにはEU基金が利用される予定である。

◆産業用電力料金の2.5%引き下げ

▶30日、エネルギー・水規制委員会（EWRC）は新規電力料金を承認し、11月1日からの産業用電力料金を2.5%引き下げることと決定した。イヴァノフ委員長は、家庭用電力料金については天然ガス価格の引き上げの可能性を考慮し、変更しないことを決定した、と述べた。

▶また、「社会的義務」（注：再生可能エネルギー事業者や火力発電所等との長期電力購入契約により生じた電力セクターの赤字を補うために設定された課税制度）についても、11月1日より37.9レヴァ/MWhから36.83レヴァ/MWhに（1.07レヴァ、2.8%減）引き下げられることになった。

（2）EU関連

◆科学・イノベーションに関する改革フォー

ラム

▶8日、EU加盟国の科学・イノベーションにおける改革に関するフォーラムが行われた。同フォーラムにはブルガリア訪問中のモエダス欧州委員（研究・科学・イノベーション担当）、タネフ教育科学相が出席した。タネフ教育科学相は、2020年までに研究開発費は対GDP比1.5%とすべきである、と述べた。現時点でのブルガリアの研究開発費は同0.6%にとどまっている。

▶モエダス欧州委員は、科学研究は結果が出るまでに長期間を要し、人々は忍耐しなければならないという課題がある、ブルガリアは科学及びイノベーションを異なる方法で捉える必要がある、と述べた。また、モエダス欧州委員は、ボリスフ首相、ドンチェフ副首相とともにソフィア・テック・パークの建設場所を訪問した。

（3）その他

◆不健康な食品への課税の提案

▶21日、「一般健康税」の導入に関する法案が保健省のウェブサイトで公表された。同税は、国民の健康の改善を目的として、ポテトチップ、ビスケット、チョコレート製品、エネルギー飲料、マヨネーズ等のいわゆる不健康な食品について課税するものである。不健康な食品の定義の中には、基準を超えるトランス脂肪酸、塩、砂糖を含有する食品、カフェインやタウリンを含有する飲料も含まれる。同税は来年7月から導入される予定であり、かかる食品は3%から75%値上げされる見通しである。なお、パンや肉、乳製品は課税対象から除外される。モスコフ保健相及びクラレフ青年スポーツ相は、同税の導入により年間1.5億レヴァの歳入増が見込めるとしている。

▶モスコフ保健相によると、同税は世界保健機構（WHO）の基準に従い不健康であると証明された食品に課されるものであり、病気の予防による医療費の削減が目的である。

▶一方、産業界は同税への反対を表明している。23日、食品加工連盟、非アルコール飲料生産者協会、パン・菓子製造者国家組合、食肉加工産業協会等の産業界は声明を発表し、同税は健康に何らの効果を与えることなく、物価を劇的に引き上げて国民から略奪するのみである、同税の導入が歳入増につながるとは考えられず、かえって闇経済の増加、無規制輸入品の増加、中小企業の倒産、雇用の損失につながる、肥満や健康問題への対策は生活習慣の見直しやスポーツ活動等の促進により行うべきである、と主張した。

◆マリツァ高速道路の完成

▶29日、マリツァ高速道路の最後の区間であるオリゾヴォーディミトロフグラッド間が完成し、ボリスフ首相により開通式が行われた。開通式にはプレヴネリエフ大統領、パブロヴァ地域開発・公共事業相、モスコフスキ運輸・IT・通信相も出席した。マリツァ高速道路は全117kmとなる。

▶プレヴネリエフ大統領は、本高速道路の完成には35年を要した、自身が地域開発相であった時、政府はトラキア、リューリン、マリツァの3つの高速道路の完成を約束したが、今や3つとも完成した、新たな議題はストルーマ、ヘムス、ソフィア環状道路である、と述べた。

我が国との関係

◆日本南東欧経済交流協会代表団のブルガリア訪問

▶1日、ブルガリアを訪問中の日本南東欧経済交流協会代表団がペトロフ経済副大臣と会談した。

同協会は、日本とブルガリアを含む南東欧諸国の間の二国間協力の発展と中小企業の促進を目的としている。ペトロフ副大臣は、同協会のような活動は二国間のパートナーシップの発展にとって非

常に重要である、日本の市場では、ワイン、チーズ、蜂蜜など多くのブルガリア製品の存在を拡大する機会がある、と述べ、経済・財政安定性を維持しつつビジネス環境を改善することを目的とした経済省の政策について説明した。

◆参議院日本ブルガリア友好議員連盟議員団のブルガリア訪問

▶12日から16日まで、岸宏一参議院日本ブルガリア友好議員連盟会長（参議院予算委員長）を団長とする同議員連盟の議員団がブルガリアを訪問した。議員団のメンバーは、岸宏一会長、長浜博行議員（元環境相）、松山政司議員（元外務副大臣）及び大沼みずほ議員の4名（松山議員は14日までの訪問）。

▶議員団はソフィア滞在中、プレヴネリエフ大統領、ポポヴァ副大統領、ツァチェヴァ国民議会議長、イヴァノフ・ブルガリア日本友好議員連盟会長及び同議員連盟のメンバー、ドンチェフEU基金・経済政策担当副首相等と会談を行った。各会談では、岸会長がブルガリアから岸会長に対しマダラの騎士勲章勲一等が授与されたことへの謝意

を述べた他、良好な二国間関係を更に発展させるための方策や、欧州難民危機をはじめとする地域・国際情勢について活発な意見交換が行われた。

▶また、岸会長は、13日、日本の中小企業庁とブルガリア中小企業促進庁の共催による日ブルガリア中小企業フォーラムに出席した。さらに、議員団は、日本語教育が行われているソフィア第18学校を視察した他、キュステンディル市民の家庭を訪問した。

◆日ブルガリア中小企業フォーラムの開催

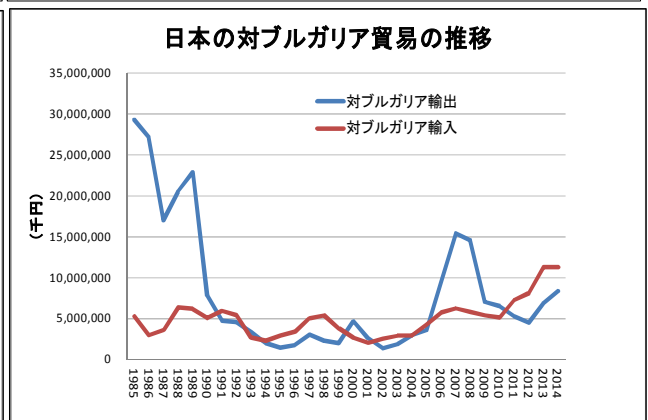
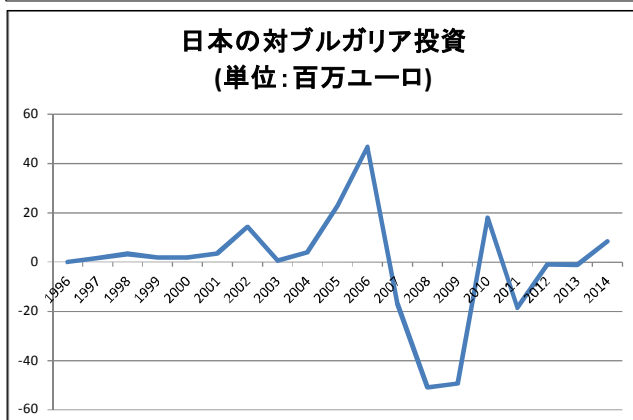
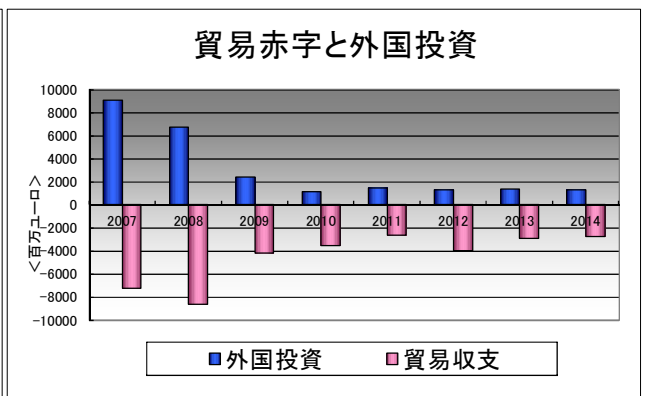
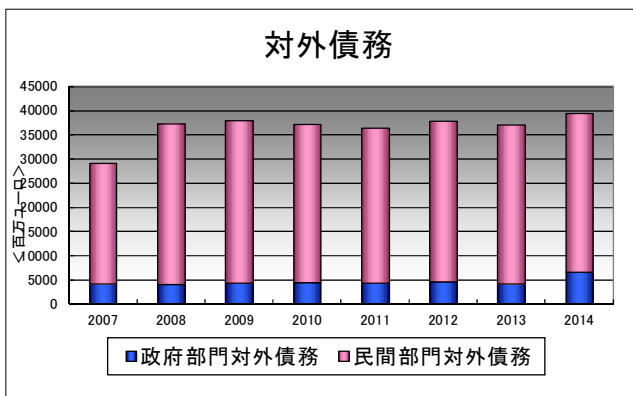
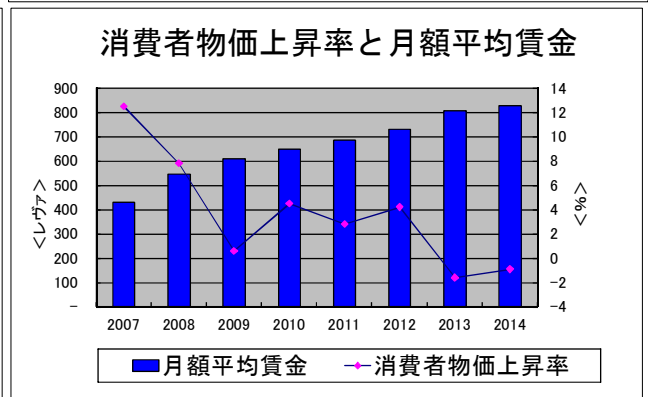
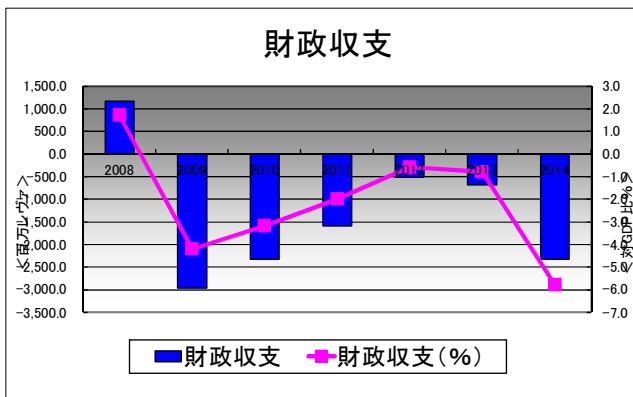
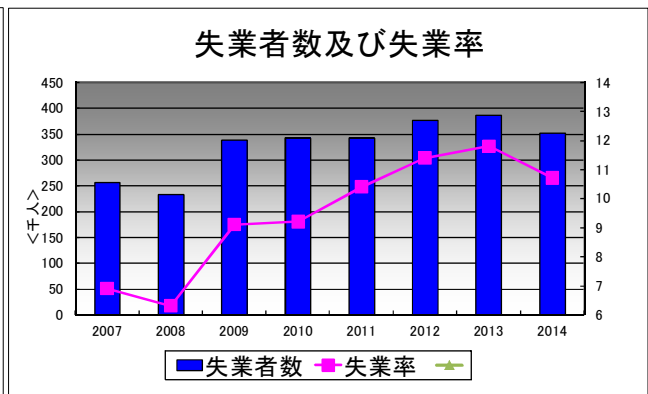
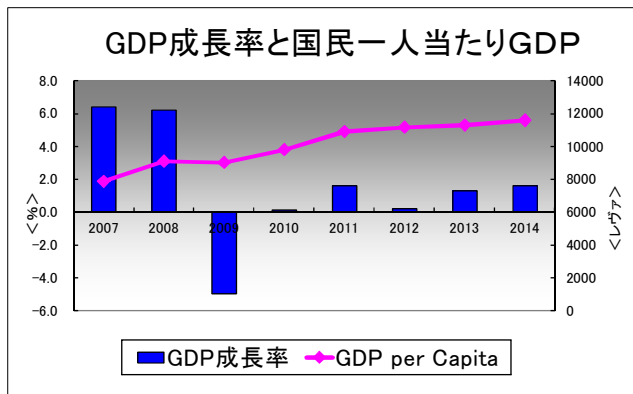
▶13日、日本の中小企業庁とブルガリアの中小企業促進庁は、ソフィアで第二回日ブルガリア中小企業フォーラムを共同で開催した（第一回は昨年6月に日本で開催）。同フォーラムには日本から豊永中小企業庁長官及びブルガリア訪問中の参議院日本ブルガリア友好議員連盟議員団等が、ブルガリアからペトロフ経済副大臣及びザハリエヴァ中小企業促進庁長官等が出席した。同フォーラムでは参加した政府・民間企業等の関係者間で活発な意見交換が行われた。

ブルガリア内政・外交の動き(10月)

在ブルガリア大使館

1(木)	
2(金)	
3(土)	
4(日)	
5(月)	
6(火)	★ニシャニ・アルバニア大統領のブルガリア訪問(～7日)
7(水)	★クーンデルス蘭外相のブルガリア訪問
8(木)	★イヴァノフ・マケドニア大統領のブルガリア訪問
9(金)	★トゥスク欧州理事会議長のブルガリア訪問
10(土)	
11(日)	
12(月)	★ヤーグラン欧州評議会事務局長のブルガリア訪問 ★参議院日本ブルガリア友好議員連盟議員団のブルガリア訪問(～16日)
13(火)	●日ブルガリア中小企業フォーラムの開催(於：ソフィア)
14(水)	☆ボリスフ首相：トルコ訪問
15(木)	●プレヴネリエフ大統領による軍情報改正法案に対する拒否権発動 ●国境付近でアフガニスタン人1名が銃弾を受け死亡 ★王毅・中国外交部長のブルガリア訪問(～16日) ☆ボリスフ首相：欧州理事会出席
16(金)	
17(土)	
18(日)	
19(月)	
20(火)	
21(水)	☆ボリスフ首相：欧州人民党大会出席(於：マドリード) ☆ミトフ外相：ギリシャ訪問(～22日)
22(木)	☆ミグ29戦闘機補修に関するポーランドとの政府間協定の署名(於：ワルシャワ)
23(金)	
24(土)	★ブルガリア、ルーマニア、セルビアの首相の三者会談(クライオバ・グループ首脳会談) (於：ソフィア)
25(日)	●地方選挙(第1回投票)及び電子投票導入の可否を問う国民投票の実施 ☆ボリスフ首相：西バルカンの難民流入に関する関係国首脳会合出席(於：ブリュッセル)
26(月)	
27(火)	
28(水)	
29(木)	
30(金)	●政府による2016年度予算案の承認
31(土)	

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	Q2
GDP成長率 (%)	6.2	-5.0	0.1	1.6	0.2	1.3	1.6	2.2	2.3
GDP per Capita (BGN)	9,090	9,007	9,793	10,900	11,161	11,283	11,574	-	-

< 財政収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	Q2
財政収支 (million BGN)	1,156.7	-2,960.6	-2,328.0	-1,589.7	-508.4	-640.1	-4,826.1	224.3	769.8
財政収支GDP比 (% of GDP)	1.7	-4.2	-3.2	-2.0	-0.6	-0.8	-5.8	0.3	0.9

< 失業者数及び失業率 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep
失業者数 (千人)	232	338	342	342	376	386	351	364	361	362	350	332	316	310	307	303
失業率 (%)	6.3	9.1	9.2	10.4	11.4	11.8	10.7	11.1	11.0	11	10.7	10.1	9.6	9.4	9.3	9.2

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep
消費者物価上昇率 (%)	7.8	0.6	4.5	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.2	0.4	0.7	-0.2	-0.9	-0.2	0.0	-0.1
月額平均賃金 (BGN)	545	609	648	686	731	775	828	856	839	882	897	873	868	879	858	885

< 対外債務 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug
政府部門対外債務 (million EURO)	3,935.9	4,208.3	4,326.9	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	6,164.5	6,097.1	6,953.8	6,722.9	6,628.1	6,530.2	6,476.5	6,368.6
民間部門対外債務 (million EURO)	33,310.6	33,608.2	32,699.4	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,804.4	32,662.3	32,732.2	32,437.8	32,386.9	31,779.2	29,358.7	29,177.6	29,022.1

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug
対内直接投資 (million EURO)	6,727.8	2,436.9	1,169.7	1,476.3	1,320.9	1,383.7	1,285.4	271.0	395.7	443.2	576.7	613.6	799.1	897.4	944.3
貿易収支 (FOB) (million EURO)	-8,597.7	-4,173.9	-3,532.7	-2,648.0	-3,947.2	-2,890.7	-2,734.6	-122.6	-386.6	-519.2	-696.0	-811.4	-916.7	-1,155.0	-1,090.7
輸出 (FOB) (million EURO)	15,204.0	11,699.2	14,180.6	19,055.7	19,667.6	21,208.0	21,016.5	1,625.9	3,273.9	5,203.4	7,113.4	8,948.5	10,903.1	12,888.8	14,818.4
輸入 (FOB) (million EURO)	23,801.7	15,873.1	17,713.3	21,703.7	23,614.8	24,098.7	23,751.2	1,748.5	3,660.5	5,722.6	7,809.4	9,759.9	11,819.8	14,043.8	15,909.0